

「周年事業」にみる100周年の軌跡

渉外委員会

城陵会(恵那高等学校同窓会)でこれまでに行われてきた周年事業についてご紹介します。

第6回 平成24(2012)年「創立90周年の記念式典・行事」

90周年記念事業は、前年に起きた東日本大震災という大惨事と、およそ3年を要した恵那高等学校新校舎完成という慶事が相交わる中で、準備が進み実施されました。その事業内容と状況等を、市川康夫同窓会長の記念誌巻頭言より創立記念事業等関係分について、成瀬正樹校長の同窓会名簿巻頭言より新校舎建設と恵那高校の目指すところの記述をもって90周年記念式典・行事紹介と致します。

創立90周年記念事業等について

待望久しかった新校舎の竣工成った本年、同窓会といたしましては、来し方90年の歴史を振り返るとともに、来たるべき100周年、さらにその先の未来を見すえつつ、90周年記念事業実行委員会を立ち上げ鋭意準備を進めてまいりました。

記念事業といたしましては、トレーニングハウス^{※1}の建設、同窓会員名簿の発行、記念式典・ホームカミングデー^{※2}の挙行、そしてこの記念誌「恵那高等学校90年の歩み」の発行を計画し、それぞれ順調に準備を進めてまいりました。

特にこれらの記念事業を推進するにあたりまして、同窓会会員の方々をはじめ、各界各層の皆様にご寄付そして会員名簿への広告掲載をお願い申し上げましたところ、誠に多くのご厚志をいただきまして、無事90周年記念事業が遂行できることとなりました。心より御礼申し上げる次第です。

この大正、昭和、平成の3代に亘る90年間において、社会環境の変化とともに、恵那高等学校自身も幾多の変遷を経てまいりました。その歴史は、創立80周年の記念誌「写真史・城陵80年」等に詳しく辿ることができますが、その後更に10年の年輪を重ねたわけでございます。

この記念誌は、この10年を近景とし、創立から80年までを遠景として、母校の歩みを纏めたものであります。この記念誌とともに、恵那高等学校の歴史をビジュアルに綴ったDVDも発行されます。

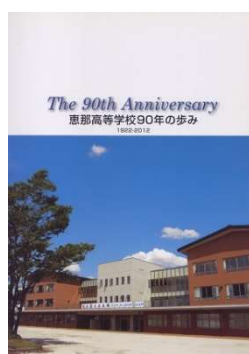
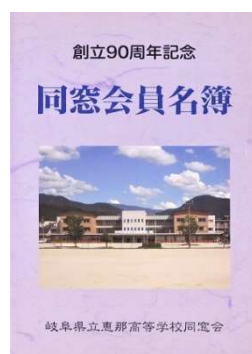
※1 トレーニングハウスには、H25年12月、同窓会よりチェストプレス、シーテッドロウ、スクワット、レッグエクステンション、レッグカール、ラットプルダウン、ショルダープレスのトレーニングマシン、同年同月PTAよりウエイトトレーニング器具が寄付されました。(「城陵」第14号より)



トレーニングハウス外観



トレーニングハウス内部



※2 ホームカミングデーは、司会を松原朋美中京 TV アナウンサー[高 60 回]が務め、歓迎セレモニーに続いて、中尾昭公名古屋セントラル病院長[高 18 回]による記念講演が行われました。他に、映画「青い山脈」(再編集版)の上映、新校舎見学、PTA バザーなどが実施されました。
(「城陵」第 13 号より)

新校舎建設について



回廊に続くエントランス



笠置山を望むテラス

現在本校は、第三代目となる新校舎が平成 24 年 2 月に完成しました。大正 13 年 5 月に建設された初代木造校舎、昭和 38 年 8 月に建設された鉄筋コンクリート 3 階建ての 2 代目校舎に続く、大きな建設工事となりました。新校舎は、全校職員生徒の昇降口を正面に配置し、サイエンスホールと呼ぶ 3 階までの吹き抜け、笠置山を望む 2 階北側の大きなテラス、第 2 校舎と結ぶ明るい連絡通路など、斬新な設計により建設されました。また全教室と全管理室には冷暖房を完備し、壁面と床面には木材をふんだんに使用するなど、本校で働き学ぶ職員生徒に配慮した校舎となりました。創立 90 周年記念式典など、来校される機会がありましたら是非ご覧下さい。本校は、昭和 45 年に理数科を設置し理数教育にも重点を置き、平成 16 年からは文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業に取り組んでいます。今年が 9 年目となる第 3 期目 5 年間で新たに指定され、理数教育に加え国際教育も充実させています。現在、国境を越えて人と物と金と情報が大量かつ迅速に移動するグローバル化が急速に進む国際環境のもと



サイエンスホール



自然志向教室廊下

これまで以上に国際社会の平和と繁栄に貢献することが求められています。「開発途上国への支援」「欧米先進国との交流や理解」に加え、国内に在住する海外からの人々と相互に理解し協力する「多文化共生社会」の実現に向けて、国際社会で活躍できる人材を育成することが本校の使命であると考えています。

今回で「周年事業」にみる百周年の軌跡は一端休憩します。掲載した写真の多くは、高 1 回古山精さんから提供を受けたものです。その中で懐かしい旧校舎玄関前のケヤキが今もあることを知りました。



旧校舎玄関前



→ 城陵広場前に木陰



冬には骨太の幹・枝を

丸い地球です、何かを求めどんどん進んで行くと見つけたのは隣の町だったという事も、生い茂る青葉、太い幹もその下でしっかりと支える根があってこそという事も教えてくれる写真でありケヤキでした。